



Y.Maeda

THE SHUKA SHOW

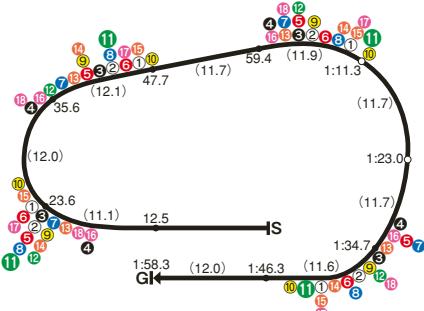
第30回 秋華賞 (GI)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 110,000,000円	44,000,000円	28,000,000円	17,000,000円	11,000,000円
付加賞 3,780,000円	1,080,000円	540,000円		



レース映像は
コモラで

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量



通過タイム : 600ドル 800ドル 1000ドル 上り : 800ドル 600ドル

アラカルト

- ・C.ルメール騎手はチュルヴィニアで制した24年に続く秋華賞4勝目で、自身の持つ本競走最多勝利記録を更新。JRA重賞は本年7勝目、通算166勝目
 - ・森一誠調教師は秋華賞初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算4勝目
 - ・アドマイヤマーズ産駒はJRA重賞通算3勝目
 - ・非当選馬 3頭(カネラフィーナ、グローリーリンク、ジョイフルニュース)
 - ・非抽選馬 1頭(テリオスララ)

単勝⑪550円(2人気) 複勝⑪240円(2人気) ⑩560円(9人気) ⑯550円(8人気) 枠連⑤-⑥2,530円(10人気)

馬連⑩-⑪5,280円(14人気) ワイド⑩-⑪1,790円(15人気) ⑪-⑫2,220円(21人気) ⑩-⑬4,610円(48人気)

馬單⑪-⑩8,170円(22人気) 3連複⑩-⑪-⑫29,560円(85人気) 3連単⑪-⑩-⑫129,850円(338人気)

5重勝③⑫⑤②⑪562,521,610円(1票) 対象競走: 東京10R/京都10R/新潟11R/東京11R/京都11R

エンブロイダリー Embroidery

牝 鹿毛 2022.2.1生

北海道安平町 ノーザンファーム生産

馬主・(有)シルクレーシング 美浦・森一誠厩舎

馬名意味・刺繡。母名より連想

アグサンIRE系 F16-c			
アドマイヤマーズ 栗毛 2016	ダイワメジャー 栗毛 2001	サンデーサイレンスUSA	
		スカーレットブーケ	
ロッテンマイヤー 鹿毛 2013	ヴィアメディチIRE 栗毛 2007	Medicean	
		Via Milano	
ロッテンマイヤー 鹿毛 2013	クロフネUSA 芦毛 1998	French Deputy	
		Blue Avenue	
	アーデルハイト 鹿毛 2007	アグネスタキオン	
		ピワハイジ	

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

大谷渡厩舎長（ノーザンファーム早来）

力を出し切れば勝負になると思っていました

オーフスは気性面の難しさもあって力を発揮しきれないレースとなりました。ノーザンファーム天栄のスタッフや、森一誠調教師と厩舎の皆さんのがその点もケアしながら調教を進めてくれており、それが返し馬やゲート裏での落ちつきにも現れています。この馬の力を出し切れば勝負になると思っていた方が、ルメール騎手が見事な手綱捌きで勝利へ導いてくれました。



N.Inaba

の座に返り咲いた。 服した桜の女王が、3歳牝馬の“盟主” 位となる秋華賞4勝目をマーク。そんな名手と呼吸を合わせ、春の課題を克 力みが目立ち、1番人気の支持に応え 反撃。懸命に抵抗する逃げ馬をねじ伏せ、二冠制覇のゴールへ飛び込んだ。 240kgのオーフスでは序盤から 折り合ったこの日の走りには着実な進境が窺えた。思い切ったリードで勝利に導いたルメール騎手は、歴代単独首

父アドマイヤマーズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香13戦6勝(香港マイルG1、朝日杯フューチュリティS G1、NHKマイルC G1、デイリー杯2歳S G2、中京2歳S O P、共同通信杯G2着、香港マイルG13着、マイルチャンピオンシップG13着、スワンS G2着、ムーン賞G14着)、最優秀2歳牡馬、21年から日、豪で供用[代表産駒]エンブロイダリー(本馬)、ナムラクララ(紅梅S・L)、プラネットレッド Planet Red(コーヒールドギニー・豪G12着)、テレサ(ローズS G22着)

母ロッテンマイヤー

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央14戦3勝(忘れた草賞O P、クイーンC G3着)

ゼビゲマン(21 牝父エピファネイア)中央2戦1勝

エンブロイダリー 本馬(22 牝父アドマイヤマーズ)中央8戦5勝(桜花賞G1、秋華賞G1、クイーンC G3)獲得総賞金338,331,000円

パートラガツ(23 牝父リアルステイブル)(W)

(24 牝父クリソペリル)

(25 牝父リオンディーズ)

祖母アーデルハイト

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ラダームプランシェ(12 牝父チカステナンゴFR)中央1勝、オードリーバローズ(節分S)の母

ロッテンマイヤー(13 前出)

アーデルワイゼ(15 牝父エインシングラッシュ)中央2勝(もみじS O P 2着)

マイエンフェルト(16 牝父ハービンジャーGB)中央3勝(HTB賞)

エーデルブルーメ(19 牝父ハービンジャーGB)中央4勝(ダイワスカーレットC、北海H、松浜特別、マーメイドS G3 2着)

アーデルリーベ(22 牝父ヘニーヒューズUSA)中央1勝、地方0勝(エーデルワイス賞Jn III 3着)(W)

曾祖母ビワハイジ

北海道新富町 早田牧場新冠支場生産 中央4勝(阪神3歳牝馬S G1、京都牝馬特別G1、札幌3歳S G3、チューリップ賞G3 2着)、最優秀2歳牝馬、15年用途変更、エナビスター(ジャパンC G1、天皇賞(秋)G1、オーフスJn I、桜花賞Jn I、ヴィクトリアマイルG1)、ジョワドヴィーヴル(阪神ジュベナイルフィリーズG1)、アドマイヤオーラ(京都記念G II、弥生賞Jn II、シンザン記念Jn III、日本ダービーJn I 3着)、サングレアル(フローラS G II)、アドマイヤジャパン(京成杯G III、菊花賞G1 2着)、トーセンレーヴ(エプソムC G III)の母

18頭の出走馬中、ひと桁の単勝オッズを記録したのはオーフス馬力ムニヤックと桜花賞馬エンブロイダリーのみ。女王対決が最大の焦点となつた秋華賞は、トライアルのローズSを中身の濃い内容で完勝したカムニャックが断然の主役と目された。しかし勝利の女神が微笑んだのは離れた2番人気の評価に甘んじた桜の女王。苦杯を喫したオーフスから、“ぶつけ”のローテーションで臨んだエンブロイダリーが、春の雪辱を見事に果たした。

手綱を押して飛び出した紫苑Sの王者ケリフレッドアスクをエリカエクスプレスが1コーナー手前でかわし、主導権を奪取。桜花賞、オーフスに続い

て最後の一冠も風を切る。平均的な流れでレースが進むなか、カムニヤックは好位の一角を追走。エンブロイダリィのC・ルメール騎手はその後についたが、向正面に差し掛かるとライバルに先んじて動き、エリカエクスプレスに並びかける。対して3番人気(に持されたローズSの3着馬セナスタイル)は、外めの枠から内に潜り込み、馬群の後方でじっくりと末脚を温存した。並ばれてもリズムを崩さず、緩みのないラップを刻んで逃げたエリカエクスプレスと、2番手に控えて折り合いに専念したエンブロイダリー。これを追いかけたカムニャックは3コーナーの坂の下りで失速し、直線は前の2頭の争いに。快調に飛ばしたエリカエクスプレスは徐々にリードを広げて逃げ込み態勢を築いたが、いつたん水を開けられたエンブロイダリーもしぶとく反撃。懸命に抵抗する逃げ馬をねじ伏せ、二冠制覇のゴールへ飛び込んだ。

『ぶつけ』挑戦で春の雪辱を果たす